

## 障がい者が住みやすい町とは ～障がい者支援～

今回の特集のため、以前ヘルプカードの記事を掲載した小金井市障がい者就労支援センター「エンジョイワーク・ところ」の見学に行きました。2012年の登録者内訳は、身体障がい者34人・知的72人・精神80人・他16人。年間相談件数延べ6000件。コーディネーター3人と、地域開拓(小金井の中小企業への衆知中心)1人で運営されています。ヘルプカードの該当者は5000人

ですが、配布希望しているのは1000人。地域の障がい者支援の事業所や作業所をつないでいく要となる所ですが、まだまだ体制は不十分。

障がい当事者が、市や社会になにを求めているのか、障がい者の介護報酬の引き下げが検討される中、支援者はどう感じているのか、今回の特集では、まずはそれぞれの立場からの意見を聞いてみました。  
(片山かおる/市議会議員)



### 当事者が関われる町づくりを！

小金井市では、第4期障害福祉計画(案)が出され、パブリックコメントを募集(2015年1/15締切)した。読んでみたが、正直言って、いまいちピンとこない感じがする。障がい当事者の声をどんどん入れたものを作って欲しいと切に思う。

私は1才の時に右手がポリオ(脊髄性小児マヒ)にかかり、筋力が弱い。40代になって左足の付け根が痛み出し、それはポリオの後遺症だと分かり、各地にある当事者の「ポリオの会」や障がい者の自立生活運動から大きな安心と力をもらった。

小金井を、障がいを持つ人たちにとって住みやすい町にしていくのはこれからだ。例えば、市議会の議場は本庁舎の4階にあり、何とエレベーターがない!!障がい者は来なくていいと言っているも同然。早く何とかして欲しい。障がいを持つ人たちが自由に声を上げられる町は、誰にとっても住みやすい町になると思う。(若林苗子/桜町)

### 障がい者と住まい

私は73才、太平洋戦争開戦の翌年生まれました。両脚の股関節脱臼のため入院しましたが、空襲と父の戦死等で退院、治さないまま成長しました。10年位前からは電動車イスで生活しています。

昨年、小金井市を離れ、立川市にある都営の車椅子住宅に転居しました。都営住宅を十数年申込み続けてのことです。小金井市の高齢者住宅にも応募はしていましたがいつも落選。単身者用の高齢者住宅をもっと作って欲しかったし、24年間住み慣れた小金井からは離れたい思いでした。そして今回この原稿。もし私が障がい当事者として小金井で自らの住宅問題など提起・発言・行動していたら・・・、私は今も小金井市民だったかもの思いが湧きます。

私は1990年障がい者の自立生活運動に出会ってました。そこで氷のように固まっていた障がいへの否定の思いが溶けはじめたのです。でも積極的な運動には参加せずでした。ああそうそう、故人になられた車イスの石川さんと武蔵小金井駅にエレベーターをと、ほんのちょっぴり交渉らしき事をやりました。駅の階段の辛さに動かされて。最後に障がい者との共生を当たり前と感じている方達と障がい者共同の市民自治の障がい者支援活動に期待します。

(佐藤侑子/小金井市から立川市へ転居)

# 座談会 「障がい者支援の現場から」 2014.12.27 (土) 夜6時~9時

今回の特集企画に際し、障がい者支援に携わる方々の現場の声を聞きたい！ということで、座談会を企画しました。精神と身体障がい者支援の現場の率直な意見交換となりました。

## 参加者：

北沢正彦(身体障がい者介護ヘルパー)

金子恵介(障がい者ヘルパー)

奥村洋(グループホームのおばあちゃん非常勤職員)

坂井えつ子(精神障がい者グループホーム職員)

市民自治こがねい運営委員：あくつようこ、片山かおる、若林苗子



**金子：**在宅の障がい者支援の仕事を8年位やってきました。その後、高齢者支援にかわり、今は調布の地域密着型の複合サービス(デイサービスとホームヘルプと少し医療的なサービス)で働いています。

**北沢：**随分前から、練馬で在宅の障がい者の介護をやっています。障がい者の方を中心に、介護者を含めた団体を作っていましたが、介護保険が始まった頃からは契約制ということで法人を立ち上げました。

**坂井：**精神障がい者のグループホームで世話人をしています。以前は別のグループホームで働いていましたが、同じ精神障がい者の支援といっても、法人が違うと方針やメンバーさんとの距離感が違ってりるので、どういう距離感で仕事場で関わっていけばいいのかということは今、模索しています。

**奥村：**心理職として精神医療の現場で40年働き、現場にいる頃からずっと自分の住んでいる地域の福祉会の理事をしています。今も非常勤職員という立場ですが時々グループホーム職員の相談にのったりもしています。

**若林：**最近友人が難病になり、武蔵小金井駅周辺を車イスで移動した時に一緒に歩いたら、駅近くの道がデコボコして、道が狭く大変でした。車イスで移動している人の数はとても少ない。南口方面は坂になっているのも原因でしょうか？

**あくつ：**2、3年前に友人が脳梗塞で倒れ、半身不随と言語障がいが残りました。友人たちでチームを作り、自立生活の見守り介助をしていましたが、てんかんで倒れ、再入院。最初の病院では介助の人を入れていたが、転院させられた病院では介助者を入れられないとのことで、今どうしようかという状況です。

**片山：**前から疑問だったのですが、小金井には精神障がい者と知的障がい者関連の施設はありますが、身体障がい者のCIL(自立生活センター)(※1)のような所がないのは何故だろう、どうしたらいいのかと思っています。

**金子：**以前立川で仕事をしていた時に、昭島でCILを立ち上げる時は、当事者がまず現地に住みました。昭島も公道が狭い。住みづらいという声を上げていかなければ中々変わらないでしょう。

**奥村：**私は各障がい者で当事者の運動ができていたら素晴らしいとは思いますが、もしそれができたら老人問題はないと思います。老人になれば目は見えなくなる、耳は聞こえなくなる、知的にも落ちてくる等、支援が必要な状態になります。そういう問題に丁寧に対応する地域になれば、障がい者問題を特殊扱いしなくなるでしょう。

**北沢：**介護は食える仕事に今のところなっていません。私たちが何とか正規職員で成り立っているのは、介護保険とはちがって重度介護訪問で、長時間利用している人が多いからです。

**金子**：福祉系の学校で学んでいる人が、施設とかに入り、安い給料ですごい介護をやらされて燃え尽きてしまうことがあります。今度、介護料が引き下げられれば、デイサービスはどんどんつぶれてしまいます。人材の確保が急務だし、一朝一夕でできることじゃない。1年、2年その当事者と関わって初めてできることがあります。

**北沢**：介護保険ができ、自立支援法ができ、総合福祉法ができ、ヘルパーの制度がどんどん変わっていくたびに、何か息苦しくて、やりづらくなってきてますね。制度が整ってくると難しい所もあると思います。練馬で在宅障がい者の介護やってもいいという知り合いがいたら、ぜひ連絡下さい。

**坂井**：精神のグループホームは、滞在型と通過型があります。通過型は地域に出ていくことを前提にして、利用期間は2年ですが、1年延長できます。私の所属する法人は通過型が主ですが、滞在型もあります。

**奥村**：精神のグループホームには、ヘルパーさんは来ません。世話人はご本人にやっていただくことの相談に乗るし、一緒に掃除をやってみようね、と言うことはあっても、介護者として居るわけではないのです。

**若林**：身体障がいの場合、急に障がいを持った時、それをメンタルな面で受け入れていくのはとても大変。ピアカウンセリング(※2)のような、障がい者同士で安心して吐き出せる場があれば、もっともっと楽になると思います。

**片山**：65才を過ぎた場合、障がい者福祉から介護保険に移れという指示はあるのでしょうか？

**北沢**：介護保険でいう自立の考え方と障がい者福祉関係の自立の考え方はちがうのに、制度的にそういう風になっちゃっている。簡単に言うと、介護保険は制度が要求するものがうるさい。長時間の重度訪問介護は、日常的に必要な人が要求していることに基づいて作られてきました。

**片山**：小金井にCILがない、作ろうという雰囲気にならないのは、どうしてでしょう？

**北沢**：CILがいいかどうかは別にして。例えば、10～20年前だと施設から出てきて、常時他人介護を入れて在宅で生活する人もたくさんいました。出てきたが最後、いやでもやらなくてはいけなくなるが、今だとそれなりに制度があります。だから間に合っちゃう人は間に合っちゃう。こういうふうに関護の必要性を認めてほしいという声をあげないと、仮定の話をしてしまわないと思います。

**奥村**：小金井市では「障がい福祉課」が「自立生活支援課」と名前が変わりましたが、障がいという言葉を取ったのは、変だと思います。障がいがあって、差別されることがおかしいのであって、「障がい福祉課」の名称を変更すればよいか、「障がい福祉課」ではだめと言うことではないのですから。

**坂井**：昨年12月の「障がい者週間」で、市内の障がい者に関わっている事業所が第二庁舎で作品の販売をしました。でも市報にそのことが書いてありませんでした。またこの前、市の掲示板に「ガイドヘルパー養成講座」の告知がありましたが、無料ではなく、1万円かかります。三鷹・武蔵野や小平は無料やテキスト代3千円程度です。

**片山**：とても語り切れないことばかりですね。第二弾で続きをやりましょう。

(以上まとめ 若林/片山)

(※1)CIL(自立生活センター)

自立生活センターは、障がい者の権利確立の為の自立生活運動の中から生まれた。障がい当事者が中心となり、介助者派遣・自立生活プログラム・ピアカウンセリング等を行い、障がい者の自立生活をサポートしている。

(※2)ピアカウンセリング

ピアとは仲間という意味。同じ背景を持つ人同士が、対等な立場で話を聞き合い、障がいを持つ人の相談に障がい者自身が当たる。自立を始めようとする障がい者にとって、精神面の重要なサポートとなっている。

座談会に出席して：

私も含め一般(?)の人にとって、障害者(しょうがいしゃ)はちょっと存在が遠いなあと思う。今の感じだとやっぱり、ある程度関心があるヒトだけが知れることだし、関心があるヒトにしか届いていないのでは、というモヤモヤがあります。もっと気軽に、もっと当たり前に、自分たちの暮らしの中で普通に関わったり知る機会が作れたらいいのになあ。(あくつ)



## インクルーシブ教育から共生社会へむけて

「普通級ではなんの支援も出来ません。」と言ったのは校長先生でした。軽度の知的障害のある娘の就学について私が市の相談にかけたのは、普通級での支援をお願いするためでした。最終面談の参加者は教育委員会、教育相談所、学校から6人。それに対して私は1人。多勢に無勢。就学相談とは名ばかりの「就学指導」という印象は拭えませんでした。保育園では手厚い支援・配慮を受けながら他の園児と共に過ごしました。それは娘にとっては当たり前前の生活でその中で多くのものを得てきました。娘の発達を促すものが保育園での共生生活の中には沢山あったのです。そして、小学校でも同じ環境を選びました。当事者が選択出来るのは素晴らしいことです。しかし、選択した先に何もなければそれは意味をなしません。

乳幼児期から学童期への切れ目のない支援、それは私たち障がい児の親なら誰もが望むことだと思います。しかし、現実はどうなのでしょう。発達支援センターが出来たことにより乳幼児期の支援は充実しつつありますが、学童期の支援は未だ多くの課題を抱えています。一つには普通級での支援の在り方です。日本が批准した障害者権利条約の中ではインクルーシブ教育システムの構築が言われています。インクルーシブ教育システムとは障がいのある、ないに関わらず、すべての子どものニーズに即した多様な教育の在り方です。小金井市はまだ「場」のみにこだわる教育者が多いように思います。「特別な支援・配慮が必要な子には特別な場が必要だ。」果たしてそうでしょうか……。普通級での支援・配慮は、財源不足・人不足を理由になかなか進まないのが現状です。障がい者の地域での自立生活が盛んに言われている今、障がい児が地域の学校に通う事からすべては始まるのではないのでしょうか。勿論、それは支援学校を否定するものではありません。支援学校でしか出来ない支援も多々あるからです。特別な支援ではなくニーズに応じて誰もが受けることの出来るあたりまえの支援・配慮、その先に共生社会はあるのだと思います。

2月下旬東京ユーロスペースで大阪の普通の公立小学校の日常を切り取ったドキュメンタリー映画「みんなの学校」が上映されます。共生社会へのヒントが詰まった映画です。ぜひご覧ください。

磯辺美希／中町



お知らせ

### 市民自治こがねい総会・記念講演会

2/21(土)

小金井市前原暫定集会施設(前原町3-33-27)にて  
総会 17:15~18:15

記念講演会 18:30~20:30(参加費 500円)

「どんぐりと民主主義・閉ざされた市民自治」  
～小平の都市計画道路をめぐる住民投票が  
問いかけるもの

小平での都市計画道路の計画案の見直しを求めた  
住民投票条例をめぐる活動と、そこから見えてきた  
「市民参加」「情報公開」「市民自治」について、水口  
和恵さん(小平都市計画道路に住民の意思を反映させ  
る会共同代表)と尾川直子さん(どんぐりの会代表)  
にお話しいただきます。

主催:会派・市民自治こがねい(小金井市本町6-6-3)

連絡先 042-316-1511

mail: office@katayamakaoru.net

### 『鳩の鳴く夜を正しく恐れるために』をめぐる、著者の 稲葉剛さん講演・高橋亜美さんとの対談

3/30(月) 19:00~ 萌え木ホールにて

参加費 500円

「市民自治こがねい」は  
わたしたち市民の力で小金井市を変えたい!  
市民の想いや考えを  
福祉やまちづくりに生かしたい!  
人権が尊重され、自治が息づく  
小金井市にしたい!

そんな考えの市民が集まり  
片山かおるさんを市議会に送り出し  
小金井のさまざまな問題を話し合っています。

どなたでも気軽にご参加ください。

※詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.sijiko.com/>

★会員になってください★  
会費 1口=3000円/年(できれば2口以上)  
・賛助会費 1口=1万円/年  
・ニュースカンパ 1口=1000円/年  
・郵便振替 00130-6-352041

編集後記 障がいを持ったことでわたしは社会の  
矛盾や弱者がおかれている状況など多くのことに気  
づかされた。障がい者が暮らしやすい町は、高齢者  
にとってもやさしい町になる。(W)